



「共に生きる社会」の実現をめざして

IUHWW

International University of Health and Welfare

vol. 114  
September  
2018



大田原キャンパス オープンキャンパス総合ガイダンス

第1回 国際医学教育シンポジウム開催  
東京赤坂キャンパス開設記念講演会

写真特集

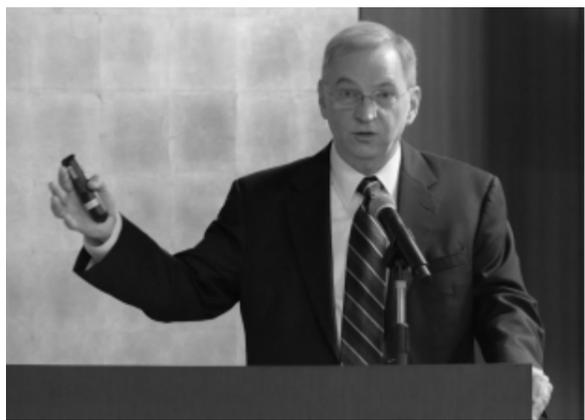
運動会、オープンキャンパス

ベトナムにドック健診センターを開設

### 第一回 IUHW国際医学教育シンポジウムを開催

国際医療福祉大学は四月三日(日)、二〇カ国から約三〇人の来賓を招いて、「第一回 IUHW国際医学教育シンポジウム」を成田キャンパスで開催した。アメリカの医学教育の第一人者であるピッツバーグ大学のジョン・F・マホーニー教授(医学教育担当学部長)や本学に医学部留学生を推薦しているアジアの提携医科大学の学長、医学部長らと政府関係者、本学から高木邦格理事長、大友邦学長、医学部教員らが参加し、世界の医学教育のあり方やアジアを中心とした国々とその提携大学における医学教育の課題や取り組みについて話し合った。

大友学長が「各国の医学教育の共通点、相違点を認識することが重要。そこから将来の次のステップが見出せる」と開会宣言したの続いて、マホーニー教授が「医学教育：現状と将来の方向性について」をテーマに基調講演をした。



マホーニー教授は現在の医師像について、「患者は常に医師に対して、一定の成果を求める高い期待値をもっており、その重圧にさらされる医師を養成しなくてはならない」と指摘。そのためには、医学教育のなかでアクティブラーニング(能動的学習)や統合的カリキュラムが有効な手段であるとし、「教科書にはない堅固なトレーニングが必要だ」と述べた。

現代の学生はIT社会の環境のなかで、常に情報に接しており、「学生自身がコントロール権、発言権を持って、主体的に学びたいと考えている」と紹介。こうした学生に対して「不確実性に対する適応力が必要で、トライできる環境、たとえばアクティブラーニングなどを通じて、物事の背景を学び、クリティカルシンキングを身につける場を提供すること」などと語った。

次に医学教育統括センター長の赤津晴子教授が「一年間の医学部教育を振り返って」と題してプレゼンテーションを行った。赤津教授は本学医学部について、「国

際的なマインドを備えた二一世紀に向けた医師を育成する」ことを理念に掲げていることを紹介。二一世紀には、指数関数的に増加する医学情報と、更に進むチーム医療を背景に、「教員から発信された情報をキャッチして暗記する」といった二〇世紀型の受け身の学びではなく、「自ら情報を取得、吟味、選択、統合する能力」および「高いコミュニケーション能力」の要請が不可欠であると強調。そしてそれが生涯教育の基盤となることを指摘した。



また、本学は国際的な視点を取り入れた医学教育の導入を目指しており、医学部一学年定員一四〇人のうち二〇人の留学生が在籍していると同時に、一四カ国約三〇人の外国人教員が教育に携わっていること、六年次には四週間以上の海外研修を必修化していることなどが報告された。赤津教授は「本学の医学教育のイノベティブなプロジェクトは本学だけのプロジェクトではない、国際的なプロジェクトだ。ここに参集のみなさまをはじめ、多くの知見を集約して、みなさまと一緒に、これまでとは次元の異なる医学教育を創造していきたい」と締めくくった。



午後の部ではホーチミン市医科薬科大、ハノイ医科大、ヤンゴン第一医科大、モルゴ国立医療科学大、カンボジア国立保健科学大、ラオス国立保健科学大、インドネシア・ウダヤナ大の留学生派遣提携大学七校が、「自国の医学教育の特徴と課題」についてそれぞれプレゼンテーションを行い、その後マホーニー教授と赤津教授が加わり、パネルディスカッションが行われた。質疑応答では、ハンガリー、ロシア、フィリピンからの参加者からの質問が相次ぎ、活発な意見交換の場となった。

### 東京赤坂キャンパス開設記念講演会を開催

国際医療福祉大学・国際医療福祉大学大学院は六月二六日、東京赤坂キャンパス開設記念として、「これからの医療と介護を考える」報酬同時改定の評価と人材確保を中心に「」をテーマに講演会を開いた。大友邦学長が「本講演会が、これからの日本の医療と介護の近未来像に関する情報と認識を共有する機会になることを願っています」と主催者挨拶を述べ、国際医療福祉大学大学院の中村秀一副大学院長の司会で活発な意見が交わされた。東京赤坂キャンパス講堂には約七〇〇人の医療福祉関係者とともに、今年、赤坂心理・医療福祉マネジメント学部の約一二〇人の一期生らが熱心に聴講した。



自治医科大学学長で社会保障審議会医療部会会長である永井良三氏が「臨床医学の多文化性」と題して基調講演を行い、医学の元は今から約二五〇〇年前の古代ギリシャの医師ヒポクラテスが患者に寄り添う医療、観察、衛生環境などを重視したことを宣誓した「ヒポクラテスの誓い」にまで遡ると指摘、これはいまま「医の原点」であると強調された。そのうえで、医

学や科学には二面性があり、常に「よく生きる」とは？ 社会との連携とは？ などを考える必要がある」と呼びかけた。

続いて、パネルディスカッションを開催。コーディネーターである埼玉県立大学理事長の田中滋氏が登壇、五人のパネラーひとり一人を紹介して、それぞれ一〇分間ずつのプレゼンテーションを行った。



厚生労働省医務技監の鈴木康裕氏は、今年診療・介護・障害福祉の三報酬が同時改定されるとともに医療計画と介護保険事業(支援)計画も改定、そして国民健康保険の主体が自治体から都道府県へと移行、医学教育にも欧米で活躍できるように新コアカリキュラムが導入されるなど、医学界にとってまさに惑星直列の年と

なったと指摘、これからは「増収よりも増益に重点置いた取り組み」が必要だと述べた。

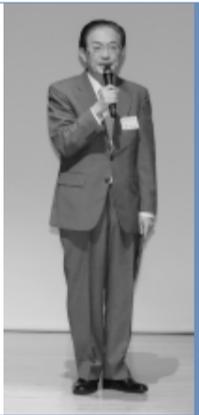
日本病院会会長の相澤孝夫氏は「患者の急性期、回復期、慢性期という流れに依り、適切な医療資源が投入されなければいけません。マネジメントを高いクオリティで行える人材の育成も急務となっています」と訴えかけた。全日本病院協会会長の猪口雄二氏は「医療介護を受ける高齢者は増加、若い世代の働き手は減少という状況が続き、全国の介護医療の現場から介護職不足の悲鳴が上がっています。質を担保しながら、効率化を追求することが急務。官民一体となって取り組むことが必要」と呼びかけた。

日本理学療法士協会会長の半田一登氏は医療介護の現場において「理学療法士の役割はとても大きいですが、その一方で人材の確保は課題となっています。賃金や業務時間の改善についても、もっと進めていかなければいけない」と指摘した。

全国老人保健施設協会会長の東憲太郎氏は今回の介護報酬改定に言及して「介護老人保健施設の役割である在宅復帰の支援ができていない施設ほど評価されるものになっていく。各老健の努力により、増収増益を実現することで、人材の確保にもつなげていける」と評価した。続いて田中理事長の司会で、五人によるパネルディスカッションが開かれ、

医療制度や介護制度の改定とともに、プレゼンテーションでも多く言及された人材確保の課題について議論された。田中理事長は「人材不足の問題は介護職だけでなく、もっと広い視点で考える必要があります。超高齢化先進国である日本は、地域包括ケアシステムなどを駆使し、アジアだけでなく世界に先駆けたモデルとなっていかなければいけないでしょう」と総括した。

### 三浦総一郎大学院長閉会挨拶



少子高齢化が進み、社会の構造が大きくパラダイムシフトが生まれました。そうした中、医療福祉の大学、大学院における教育の必要性も今まで以上に高まってきました。

国際医療福祉大学はこれからの日本の社会をしっかりと支えるために、知の拠点、国際交流の拠点となり、世界にイノベーションを発信し、医療福祉分野で有能な人材を育成していきます。ここ東京赤坂キャンパスも、建学の精神である「共に生きる社会」の元、地域はもろろんのこと、全国から愛されるキャンパスをめざしていきます。

### 高木理事長が 大田原市の名誉市民に



国際医療福祉大学の高木邦格理事長が七月二四日、大田原市から市の発展に多大なる貢献をしたとして名誉市民推挙式が行われ、名誉市民章が贈られた。名誉市民推挙式で津久井富雄市長は「高木様は平成七年四月、本市に日本初の医療福祉を専門とする総合大学であり、国際医療福祉大学の理事長として同大学を設立・開学され、現在では三学部八学科に四〇〇〇人を超える次世代を担う学生が勉学に励んでおり、名実

ともに国内における医療福祉の先進的な大学であります。大田原市内への就職者数は五〇〇人を超え、栃木県内へも四〇〇人を超える医療福祉分野の優秀な人材を輩出されています」と高木理事長の功績をたたえた。

これに対して高木理事長は「国際医療福祉大学の二三年にわたる活動や附属・関連施設の地域における活動、教職員や学生に対するご評価だと受けとめ、大学全体でお受けするという気持ちから、ありがたうとお受けすることにいたしました」と述べた。

高木理事長は、栃木県とは平成二二年に開設した介護老人保健施設「マロニエ苑」をきっかけに信頼関係が生まれたことを紹介。「医師のトップダウンですべての治療方針が決定された時代から、チーム医療が重視される時代になり、医師と対等に議論ができる医療福祉専門職の育成が必要になってまいりました。その時まさに大田原市も大学誘致を検討されており、各職能団体と協力し、県や市と協力しながら開学いたしましたのが国際医療福祉大学です。国際医療福祉大学がここまで発展いたしましたのは、大田原市や市民の皆様が本学を大切に想ってくださり、日本を代表する大学のひとつに育てていただいた賜物だと思っております。本日の推挙式にあたって、むしろ私の方が大田原市や市民の皆様、栃木県や県民の皆様にご感謝しなければならぬのだと思っております」と感謝の気持ちを述べた。

### あいおいニッセイ同和損害 保険株式会社 奨学生認証式

二〇一八年度の国際医療福祉大学・あいおいニッセイ同和損害奨学生認証式が六月六日、東京都渋谷区あいおいニッセイ同和損害の金杉恭三社長が「全力でサポートしますので、しっかりと勉強して立派なプロフェッショナルになり、社会貢献していただくことを期待します」とお祝いの言葉を述べた後、奨学生一人ひとりに認証状を手渡した。



●前列は新たに奨学生に選ばれた9名

二〇一八年度の奨学生は以下の皆さん。

- 竹内理香子さん（保健医療学部 視機能療法学科二年）
- 阿部千尋さん（同 放射線・情報科学科二年）
- 小川亜美さん（薬学部 薬学科二年）
- 長滝麻美さん（成田保健医療学部 医学検査学科二年）
- 目加田英明さん（医学部 医学科二年）
- 山崎せりさん（小田原保健医療学部 作業療法学科二年）
- 下迫仁子さん（福岡保健医療学部 医学検査学科二年）
- 平田理紗さん（福岡看護学部 看護学科二年）
- KHINE CHO KAWAさん（保健医療学部 言語聴覚学科一年）



中から選ばれて奨学生になったことを誇りに思い、これまで以上に勉強に励んで、国際性も身につけた優秀な医療専門職になってください」と学生たちに励ましのスピーチを贈った。

### 矢崎義雄総長の 退任インタビュー



六月末に総長を勇退した矢崎義雄名誉総長が、退任前の五月初旬、記念映像制作をかねてインタビューに答え、昨年四月の医学部開設について、「『国際性』と『革新的な教育』という2つのキーワードを実現することができて、責任を果たせた」と振り返るとともに、本学の学生に「専門性の高いさまざまな医療職がお互いに情報交換して、チーム医療を実現してほしい」とメッセージを贈った。

矢崎名誉総長が総長に就任したのは、二〇一二年四月。「本学はそもそも、医療の質と社会的地位の向上を目指しており、教育体制が整った素晴らしい大学だった。この大学なら画期的な医学部の設立が実現できると思った」と当時の心境を語った。医学部開設の経緯については、「反対の嵐の中でも、周囲を説得すれば何とかなんと、楽観的だった。単に八二番目の医学部を作るのではなく、開

学以来二〇年にわたる国際性の実績を踏まえて、医学教育を患者さんの診療から始めるという、これまでにない革新的な医学部になるわけだから」と、強い信念を持って進めていたことを強調。医学部の学生に対しては、「国際的な視点を持ち、自分で柔軟に考え行動する人になってもらいたい。コミュニケーションを磨き、トータルな全人的な医療ができるように、総合的な診療能力を身につけてほしい」と注文をつけた。

日本の医療がこの半世紀で大きく変わったことにも触れて、「医療への評価が、医師側だけではなく、患者さんの希望をどこまで反映できたかという満足度を重視する方向にシフトした。『治す医療』から『治して支える医療』になり、医師だけが関わるのではなく、他の医療職、患者さん本人、地域の方々との共同作業になってきているのは、大変良いことだ」と語った。

これを受けて、医師をはじめたくさん医療職を育成している本学の学生たちを、「これからは高齢化で医療・福祉へのニーズが一層高まり、医療職全体が担うべき役割が、ますます大きくなる。それぞれが専門知識を身につける一方で、一緒に教育を受けている他の専門職への理解を深め、みんなで行うチーム医療に向かって活躍してほしい」と励ました。

（広報部長 小畑洋一）

※記念映像は本学VODライブラリーの副教材で閲覧可能。

## International University of Health and Welfare IUHW vol.114 September 2018 CONTENTS

20	19-18	17	16-12	11	10	9	8	7	6	5-2
キャンパスラッスー クラブサークル紹介 お茶会サークル	成田病院／国際医療福祉大学病院／塩谷病院／熱海病院／市川病院／三田病院／山王病院	施設インフォメーション	国際トピックス ベトナム・ホーチミン市にドック健診センターを今秋開設／留学生が見た母国と日本の保健福祉事情	写真特集 運動会／オープンキャンパス	大川 佐賀大学医学部で解剖見学実習／平成三〇年度福岡県佐賀県大学図書館協議会総会／約三〇〇人が地域清掃活動に参加／大川市民夏まつりを開催	福岡 佐賀大学医学部で解剖見学実習／新入生歓迎会を開催／一年生親睦会を開催	東京赤坂 二学科新入生交流会を開催／初めてのイベント「日本文化にふれよう！」を実施／大学院で新研究科、新分野が開設	成田 関連職種連携ワークショップ報告会を実施／TEXAS A&M国際大学が来訪／模擬患者さんが参加して授業「医療面接II」を実施	大田原 岩沼市千年希望の丘「海見える植樹祭」に参加／平成三〇年度関連職種連携教育／保護者と二～三年生のための就活講座を開催／精神保健福祉コース実習前合宿を実施	トピックス 第一回IUHW国際医学教育シンポジウム 東京赤坂キャンパス開設記念講演会 高木理事長が大田原市の名誉市民に 矢崎義雄総長の退任インタビュー あいおいニッセイ同和損害保険株式会社奨学生認証式

# 大田原

## 第114回 キャンパスレポート

### 岩沼市千年希望の丘「海の見える植樹祭」に参加

海から近い場所にある千年希望の丘に初めて訪れた。七年前に津波と共にすべてを飲み込んだ海とは思えないほど穏やかな景色に、東日本大震災で失った尊厳の重みを忘れてはいけないと改めて感じた。

苗を一本一本、仲間とふれあひながら植えている光景に、人との繋がりと植物が根を張り大地に広がって行く様子とが重なり、心の中で暖かみを感じる活動となった。苗はまだまだ小さく弱い、月日をかけて木々へと成長していく。

この成長を親になった気持ちで見守りたいと強く思った。自然災害は私たちの力では防げるものではない。しかし、植樹活動を通して震災後、繋がれた地域の方との出合いを私は今後大切にしていきたい。

(放射線・情報科学科三年 名取峻巳)

※四月三日宮城県岩沼市押分地区にて約五〇〇〇本の苗木を約七〇〇人で植樹活動を行った。本学からは学生二〇人(内留学生二人)教職員五人が参加した。



### 平成三〇年度 関連職種連携教育

#### 〈関連職種連携ワークショップ報告会〉

「関連職種連携ワークショップ報告会」が七月七日行われた。関連職種連携ワークショップでは、模擬事例を用い問題解決型体験学習を通じ、職種間連携の基礎技能を学修、報告会では事例ごとに三教室に分かれ学修成果を発表した。各教室の優秀賞に選ばれたチームは午後の部にて再度発表を行い、活発な質疑応答が繰り広げられた。

#### 〈関連職種連携実習〉

七月三〇日から八月三日まで「関連職種連携実習」が行われた。学科横断チームにて実際の病院や福祉施設で五日間の実習を行う。「関連職種連携教育」の最終ステップである。国際医療福祉大学熱海病院では大田原小田原の両キャンパスの混合チームがキャンパスを超えての連携を図った。九月一日に大田原キャンパスで「報告会」が実施される。

八月一日には茨城県立医療大学で開催された「第二一回日本医療福祉連携教育学会学術集会」にて、本学の関連職種連携教育の概要および連携実習を通して学んだことを発表し、発表後は他大学の学生、卒業生とディスカッションを行い、本学の多職種連携の強み、意義を再確認した。

(教務課 佐藤幸絵)



### 保護者と一〜三年生のための 就活講座を開催

保護者と一〜三年生の在校生を対象に七月四日、就活講座を開催した。新卒看護師を取り巻く社会状況と看護士としての就職活動のあり方について理解を図り、保護者として学生の就職支援体制を整えてもらうこと、ホームである関連病院への就職促進を目的として今年も実施した。参加者は四五人であった。

野呂千鶴子学科長の挨拶後、就職担当教員が「これからの大卒看護師の就活のすすめ」をテーマに新卒看護師の就職状況を解説。とくに国際医療福祉大学の関連病院について、本学のホームとして新卒看護師のサポート体制が充実していることと早期離職者が少ないことや、将来にむけたキャリア発展のための環境等が充実していることについて説明された。

国際医療福祉大学病院教育担当部長である成田いづみ氏(二期生)や国際医療福祉大学塩谷病院長の馬場美和氏(一六期生)から、臨床経験に基づいた看護師としてのキャリアアップについてメッセージがあった。また国際医療福祉大学塩谷病院教育担当部長である印南裕子氏から、関連病院全体の教育体制としてのラダー制について説明があり、さらに二〇二〇年に開院する成田病院の紹介があった。各病院への見学ツアーも実施され、参加者からは就職状況や関連施設について詳しく知ることができてよかったと好評であった。

(看護学科准教授 林圭子)

### 精神保健福祉コース 実習前合宿を実施

「社会福祉法人ブローニユの森」(佐野市)に協力をいただき、精神保健福祉コース四年生の実習前合宿を五月八日、九日、実施した。初日は佐野・足利・栃木の各エリアで展開しているさまざまな事業所を見学させていただくとともに、通所している利用者さんにお話を聞いた。病気や障害による辛さや困難を抱えながらも生き生きと活動する実際にふれ、学生は多くのことを感じたようであった。

二日目は毎年恒例のソフトボールによる交流会が行われた。学生とブローニユの森の対抗戦では惜しくも敗れたが、チーム一丸となって全力でプレイする学生の姿が印象的であった。

二日間の合宿を通して、「精神障害者に対するイメージが変わった」「夏の実習で、もっと利用者さんの話を聞いてみたい」との感想が聞かれた。利用者さんとも活動しともに楽しむ機会を通して、学生の中にある精神障害者に対するイメージが変わっていくこと、さらには一緒に実習を取り組む仲間達との団結力を深める機会にもなったことと思う。二日間ご協力いただいたブローニユの森の皆様へ感謝申し上げるとともに、実習を通して学生がさらに成長していくことを期待している。

(医療福祉マネジメント学科助教 佐藤祐樹)



# 成田

## 第12回 キャンパスレポート

### 成田看護学部・成田保健医療学部

### 関連職種連携ワークショップ報告会を実施

七月七日、成田キャンパスでは初めての「関連職種連携ワークショップ報告会」を開催した。

「関連職種連携ワークショップ」は、成田看護学部と成田保健医療学部の三年生が五学科横断の三三チームを編成して実施した。

一一の模擬事例が用意され、それぞれ三三チームが同じ事例を担当した。チームごとに指導教員が付き、異職種をめぐり学生同士で患者さんの治療方針や目標についてディスカッションを重ねた。



●事例代表チームの発表

午前の部は、事例ごとに分かれて「事例報告会」を行った。発表一〇分・質疑応答一〇分まで三三チームが発表し、互選によって事例代表チームを決定した。午後の部は、会場を大講義室に移して「事例代表チーム報告会」を行った。ほかの事例を担当したチームからも積極的に質問があり、質問する側・される側の双方にとって有意義なやりとりが見られた。最後に松谷有希雄副学長から事例代表チームに表彰状が手渡された。

また、事例代表チームのうちの一チームが、八月五日と一九日に開催したオープンキャンパスの総合ガイダンス内で、発表に使ったパワーポイントで「関連職種連携ワークショップ」の内容を紹介した。医療福祉職をめぐり受験生やその保護者に向けて、本学の特長的なカリキュラムの一端を学生が紹介したこと、本学に対する理解がさらに深まったことを期待している。

(広報 金井雅之)



●発表後の質疑応答

### TEXAS A&M国際大学が来訪

七月二三日、テキサス州最古の高等教育機関で学生約五万人が在籍するTEXAS A&M国際大学のコミュニケーション障害学専攻の学生一人と引率一人が成田キャンパスを来訪した。期末テストの期間中で、教員と大学院生による情報交換となった。三学部の施設見学では、設備や検査機器の豊富さに驚いていた。

本学科に留学したいという学生がいて、短期留学制度やカリキュラムについて質問があった。まずは日本語を勉強して、いつか再会する日がくるかもしれません。



●学科フロアの見学では学生に話しかける場面もあった

Eleven students majoring in communication sciences and disorders at Texas A&M International University visited Narita Campus on July 23rd for several hours as part of 'Study Abroad Trip to Asia'. The students seemed to be excited not only about IUHW curriculum focused on developing best services for those who have speech, language, and/or hearing disorders but also to learn and experience cultures of Japan, China and Thailand with all their senses. They ate hamburgers only once during eight days of trip in Japan.

(言語聴覚学科長 城間将江)

### 医学部

### 模擬患者さんが参加して 授業「医療面接Ⅱ」を実施

七月二四日、「成田キャンパス模擬患者の会」の模擬患者さん三六人が参加して、医学科二年生の授業「医療面接Ⅱ」を実施した。

模擬患者さんは三回の事前講習会で、痛みのある場所が異なる三種類の腹痛のうちの一つを担当し、それぞれの症状を訴える演技の練習を重ねてきた。一人一人五分の面接を平均三回受け持ち、「前回より自信をもって演技できた」、「医学生に教育に携わっていることにやりがいを感じた」という感想が寄せられた。参加者全員が集った最後の講評では、模擬患者さんから学生へ適切なフィードバックと励ましがあり、教職員と学生から感謝のこぼれと温かい拍手が送られた。

(広報 金井雅之)



●模擬患者さんから学生へのフィードバック



●マジックミラー越しに見る医療面接の場面

# 第1回 東京赤坂

## キャンパスレポート

### 二学科新入生交流会を開催

今年四月にスタートした東京赤坂キャンパスで、初の学生対象イベントとして四月二四日、心理学科と医療マネジメント学科合同の新入生交流会を実施した。二学科の第一期生が二〇組の混合グループに分かれ、共同作業と懇親会を通して学科を越えた交流を行った。共同作業では「紙粘土フェス」として、学生が各自で自分の好きなものを作り、完成した後、各々が作品をもとに話し合い、グループで一つのテーマにまとめるという作業を通じて相互理解を図った。



その後、飲み物と軽食を囲んでの懇親会では、各グループに笑顔が溢れ、新入生同士の親睦が深まる良いイベントとなった。

### 赤坂の歴史講義

赤坂心理・医療福祉マネジメント学部は四月一七日、大学入門講座Ⅰ（基礎）として、地元赤坂のことを知る「港区の

歴史・赤坂の歴史」の講義を実施した。講師として登壇されたのは赤坂郷土史研究が専門の藤田薫さん、赤坂氷川神社の禰宜・恵川義孝さん、総務・恵川麗子さん、NPO赤坂氷川山車保存会の小谷和彦さんら。



藤田さんは「赤坂青山歴史伝承塾」座長で、講義では赤坂の歴史とともに赤坂の文化を伝承し、今に活かす未来へつなぐ思いを語った。続いて「赤坂氷川神社と赤坂氷川祭」をテーマに、赤坂氷川神社の恵川禰宜らが登壇。恵川禰宜は赤坂氷川山車の歴史や、赤坂氷川山車の復興に尽力しながらご病気のために亡くなった実兄の話を継いで山車の修復に取り組んできたこと、赤坂氷川祭についてお話いただいた。講義の合間に雅楽部隊やお囃子部隊の実演あり、学生らは熱心に聴講していた。

東京赤坂キャンパスでは地域貢献のひとつとして、赤坂氷川山車保存会の要望のあった氷川山車の常設展示をキャンパスのエントランスで行っている。

### 国際交流センター

### 初めてのイベント 「日本文化にふれよう」を実施

東京赤坂キャンパスのオープンキャンパスが開催された八月一九日に、グ

ランドフロアの国際交流センターで、「日本文化にふれよう」と題して、初めてのイベントを開催した。午前の部ではセンタースタッフによる折紙ワークショップ、午後の部では研修室インストラクターの堀田文恵さんによる日本の挨拶、和食のマナーについて講義・ワークショップを行った。

中国人の修士留学生は「外国人対象ということでより分かりやすく教えていただき、今まで理解していた和食文化の間違ひも知ることができた」と感激していた。日本文化を身近に感じていただき、参加者同士の交流を深めるとともに、国際交流センターの活動を知っていただく良い機会となった。

国際交流センターは、外国人や海外からの旅行者を中心に医療などの情報をお伝えする窓口として設置されているが、平日午前中には「日本語で話そう」と称して、日本語で自由に楽しくおしゃ



べりをする時間を設けるなど国際交流の場を提供している。

(国際交流センター 長谷川さち子)

### 大学院で新研究科、新分野が開設

平成三〇年四月に東京赤坂キャンパスがスタートし、本学大学院も東京青山キャンパスから移転したことにともない、新しい研究科、分野も開設され、新入生の講義が始まった。

新たに設置されたひとつは、医学専攻（博士課程）と公衆衛生学専攻（修士課程）からなる「医学研究科」。東京赤坂キャンパスをはじめ、成田、大田原、福岡、大川キャンパスで四月より講義が始まった。本学医学部と連携し、国際的に活躍できる医学研究者、専門職業人の養成を目指し、総合的な教育を実施する。

また、新分野として「災害医療分野」「遺伝カウンセリング分野」を開設した。「災害医療分野」は災害対応の基礎をなす知識や技能を幅広く修得し、災害時の保健医療対応での課題を解決していける人材の育成を目指す。「遺伝カウンセリング分野」は遺伝性疾患およびがんや希少疾患など各専門領域のプロフェッショナルによる講義や実習を通し、高い専門性と豊かな人間性を備えた認定遺伝カウンセラーの育成を目標とする。なお、この新設された二分野は東京赤坂キャンパスのみで受講可能となっている。

来年度は本学大学院開設二〇周年の節目となるため、研究・教育環境のさらなる拡充を目指していく。

### オーストラリア・ビクトリア州留学奨学金（官野陽介記念奨学金）受給者決定激励会

小田原保健医療学部作業療法学科卒業生の官野陽介さんが、昨年オーストラリアに語学留学中、不慮の事故に遭い命を落とされた。ビクトリア州がその人生をたたえ設立した「官野陽介記念奨学金」の対象者が理学療法学科二年生の小口泰喜さんに決まったことを受け、六月二五日に激励会が執り行われた。

当日は、官野さんのご両親が来校され、在学当時の小田原保健医療学部学部長の杉原素子教授、同じく作業療法学科副担任の平野大輔講師、学部長・理学療法学科科学科長の黒澤和生教授、作業療法学科科長の藤本幹教授、理学療法学科の河西理恵准教授が同席し、小口さんへの激励と安全祈願、大学より奨学金制度創設への謝辞を述べた。

官野さんの在学時や卒業後の留学当時の思い出に触れるとともに、官野さんのご両親から、「この奨学金が今後も引き継がれ有効に利用されることが励みになります」とのお言葉とともに、小口さんにお守り、激励の品が手渡された。この奨学金が留学に意欲ある在学生、卒業生に引き続き利用されることが、官野さんの志を引き継ぎ、有意義な奨学金として利用され国際的に活躍できる人材の育成につながることを願う大切な機会となった。

(学務課 下田智香子)



### フレッシュマンプログラム開催

小田原キャンパスで新入生を対象にした「フレッシュマンプログラム」を五月一九日、開催した。

今年はいくつかのプログラムで実施。その一つは「将来の連携のために、他学科の役割を知ろう」で、看護学科、理学療法学科、作業療法学科の三学科それぞれが設置され、自分の学科以外の体験をすることで他学科の役割専門性を知る機会となった。

午後から会場を城内校舎へ移し、「清閑亭小田原めぐり」を実施した。小田原まちづくり応援団のボランティアのみなさんにご協力いただき、各学科の先生方も一緒にボランティアの説明を聞きながら、学生と小田原市内や大学周辺の歴史を感じることができた。最後は体育館で、「学友会レクリエーション」と題し、大縄跳びやクイズなど、新入生を盛りだてたプログラムを行った。



学生たちは今回の講義を通じて小田原に大変興味を持ち、地元産業の成り立ちについて深く学ぶことができたようであり、有意義な機会となった。講義にお越しいただいた「小田原蒲鉾協同組合」のみなさんに感謝するとともに、今後も地域に根付いた大学として小田原市をはじめとした地域との連携をさらに深めていきたい。

(学務課 村坂美希)

### 大学教養入門で「小田原かまぼこ」を学ぶ

小田原キャンパス城内校舎で六月四日、「大学教養入門」第一回目の講義が行われた。同講義は一年生を対象とした必修科目で、化学・物理学の基礎知識やレポートの書き方、医療人としてのマナーを学ぶなど、これから大学で学んでいくために必要な導入教育として開講している。今回はその最終回として「小田原市の産業について」をテーマに小田原かまぼこに携わる「小田原蒲鉾協同組合」のメンバーに地元名産のかまぼこについて講義いただいた。

講義はかまぼこがいつから食べられていたのかといった歴史から始まり、かまぼこの種類と地域性、製造方法を動画で紹介するといくような参加型形式で行われた。締めくくりに、かまぼこの食べ比べということで、二種類のかまぼこを試食させていただいた。学生は味や食感の違いに驚いた様子で、お正月だけでなく普段からかまぼこを食べるようになったという声が多く聞かれた。

学生たちは今回の講義を通じて小田原に大変興味を持ち、地元産業の成り立ちについて深く学ぶことができたようであり、有意義な機会となった。講義にお越しいただいた「小田原蒲鉾協同組合」のみなさんに感謝するとともに、今後も地域に根付いた大学として小田原市をはじめとした地域との連携をさらに深めていきたい。

(学務課 村坂美希)

### 北條五代祭りに二七人が参加

今年も小田原市最大の観光行事である「北條五代祭り」が五月三日に盛大に開催された。この祭りは小田原市観光協会が主催し、歴史と伝統に培われた「城下町小田原」をより広く県内外に紹介・宣伝することで多くの観光客の誘致を図り、小田原市の活性化と発展に結び付けることを目的とした市民総ぐるみの祭りである。見どころは北條城主を模した総勢一六〇〇人を超える武者行列であり、その武者行列に今年も小田原保健医療学部の学生一五人と教員二人が参加した。

武者行列には、小田原市出身で小田原ふるさと大使の俳優合田雅史さんが北條家初代の早雲役として参加。また昨年に引き続きNHK大河ドラマ「真田丸」で北條氏政を演じた高嶋政伸さんが氏政に扮し、武者行列に参加することで沿道の観光客からも大きな声援を受けて、祭りをさらに盛り上げていた。

小田原保健医療学部の学生たちは、着慣れない甲冑等を身にまとい、二代目の北條氏綱隊として小田原市議会議員、小田原高等学校の生徒とともに編成された武者隊を担当した。沿道の観客からの声援に、学生たちも笑顔で、そして堂々と武者行列に参加していた。終了後には学生から、楽しかったので来年も参加したいという声

# 第46回 小田原

## キャンパスレポート

第37回

福岡

キャンパスレポート

佐賀大学医学部で解剖見学実習

前期科目「看護形態学(解剖学)」の授業の一環として、七月一日に佐賀大学で解剖見学実習が行われた。この実習は、大川キャンパスと福岡キャンパスの一年生を対象に、医学検査学科小坂克子教授のご指導のもと毎年実施。今回、「人体の構造と機能を理解する」「人間の尊厳と医療職の責務を考える」という二つの目的を持って実習に臨んだ。

当日、看護学科の学生は実習着に着替え、バスで佐賀大学に向かった。佐賀大学の実習室で、ご献体に黙祷を捧げ実習を開始した。学生は緊張しながらも、説明を聞きながら熱心に見学し、これまでの学習内容と照らし合わせ質問していた。例えば、臓器の大きさ、位置や繋がり、動脈と静脈の違い等、テキストや画像だけでなく、実際に見学することで、より興味を深めたようである。年齢や性別の違い、疾患による臓器の変化を知り、さらに生活状況まで想像する学生もあり、今後の学習への動機づけになったようだ。気分不良のため退室する学生も数名見られた。

解剖見学に対する怖さや不安、また猛暑日であったことも影響したと考えられた。学生の体調管理が課題である。解剖見学実習は、医療系の学生にとって、大変貴重な機会である。ご献体への感謝の気持ちを忘れず、命の尊厳を知る医療者へ成長してほしい。

(看護学科准教授 川口賀津子)

新入生歓迎会を開催 今年も軽音楽に加えヒンゴ大会

五月二四日、新入生歓迎会を開催した。学友会が企画・運営しており、年度始めの恒例行事となっている。新入生歓迎会といつても、いわゆる「新歓」とは少し違い、学校の一室でお菓子を取り囲んでレクリエーションなどを楽しむ会である。

今年も、軽音楽部の演奏発表に



に加え、豪華景品が当たるビンゴ大会も開催した。一年生はもちろん、運営する学友会メンバーも最初は緊張していたが、場の雰囲気は温まるにつれ、緊張もとけて和気あいあいと会を楽しむことができた。景品が当たった学生も「当たらなかった学生も「参加して良かった」という声が聞かれ企画した側としては、嬉しい感想であった。普段は同じ校舎にいないとはいえ、授業や演習でほとんど交流がないため、こういった行事で仲良くなれることは学校生活を送る上でも貴重な機会だと感じた。今後も交流の場を設定し、学年を越えて交流を図っていきたい。

(第九期学友会会長二年 河村 空)

一年生親睦会を開催 定期考査を前に励まし合いも

一年生親睦会が七月九日に開催され、教員も含め一〇〇人以上が参加した。はじめに、大池美也子・福岡看護学科長より激励のお言葉をいただき、みな集中して耳を傾けていた。

親睦会では、サンドウィッチや色鮮やかなオードブルに加え、さまざまなお菓子が用意された。参加した学生は、食事を取りながら、友人や教員と楽しく交流を図っていた。会場が福岡キャンパス二号館九階ラウンジであったこともあり、見晴らしのいい海沿いの風景を堪能しながら、食事や会話を楽しんでいった。

一年生は入学して、三カ月が経過し次第に大学生活にも慣れ、入学の時に比べ明るく、活気がみられていた。一人暮らしを始めた学生も、住んでいる地域の雰囲気にも慣れ、自炊することが楽しみであるとの話を聞くことができた。



また、入学して初めての定期考査を控えていることもあり、教員に対し学習に関する相談をしている学生や、遅くまで残って自己学習をしていること友人同士で励まし合っている会話を耳にすることができた。

楽しみとして夏休みについて話す学生が多く、何がしたいか、現在計画していることを話している場面もあり、それぞれが楽しい時間を過ごすことができていたようであった。

締めくくりに挨拶を花田妙子教授よりいただき、学業を大切にしながら、学生生活を楽しんでほしいと、学生へ向けてエールを贈られた。今回の親睦会をおして、より大学生活を楽しく、充実した日々にしてほしい。

(看護学科助教 森 雄太)

第51回 大川 キャンパスレポート

佐賀大学医学部で解剖見学実習

福岡保健医療学部の四学科と福岡看護学部看護学科の一年生を対象にした解剖見学実習が七月二三日、佐賀大学医学部で実施された。本実習は解剖学の学習の一環として、また見学をとおして人間の尊厳と医療職の責務について考える目的で小坂克子教授のもと例年開催されている。内容は人体の筋組織や臓器、頭部解剖、シリコン標本など多岐に渡り、本学の五学科の教員から各標本の解説を受け、学生は熱心に観察したり触れたりしていた。

解剖学は医学の基礎でありながら、完全に習得することは難しく、とても広く奥が深い。見慣れた部位でも着眼点を変えると全く別の理解が生まれる。私自身、医学を学ばば学ばばほどに解剖学に戻り、関連する部位に触れたいと感じる。百聞は一見に如かずといわれるが、学生にとって非常に貴重で有意義な時間となったはずである。今後「もう一度見たい」と思える学生がいたら是非応援したい。

解剖実習は「ご献体いただいた方のお志、ご本人の遺志を尊重してくださったご遺族の献体運動へのご理解あって初めて成り立つ学問・実習である。実習中に涙を見せる学生もあり、多くの学生が命の尊厳を感じ、胸に突き刺さるものがあったたであ

う。佐賀大学の協力を得て見学実習できる貴重な機会であるので、この実習を経て学生が一回り大きく成長していくことを楽しみにしている。

(医学検査学科助教 森山良太)

平成三〇年度福岡県・佐賀県 大学図書館協議会総会

大川キャンパス図書館と福岡キャンパス図書館は「九州地区キャンパス図書館」として福岡県・佐賀県大学図書館協議会(加盟四〇館)に加盟している。

五月二五日、同協議会の当番館として平成三〇年度の総会を大川キャンパスで開催。三三館から四一名の参加があった。議長に選出された原富英、大川キャンパス図書館長が議事を進行、前年度決算、新年度予算の承認後、北部・福岡・南部の三地区から活動報告が行われ、各地区の活発な研修活動を知ることができた。

引き続き佐賀大学理工学部の只木進一教授による「認証統合・連携が拓く図書館サービス」と題した講演が行われた。大学キャンパスで図書館サービス等のWeb化が進む中、学生・教職員の情報を統一的に管理する「統合認証システム」と、一つのシステムで認証を受けると他のシステムでは認証を省略できる「シングルサインオン」を連携することのメリット等が説明された。

中でも国立情報学研究所が主導する「学認サービス」に大学が参加することで、構成員である学生・教職員が「学認対応」の電子ジャーナル等を所属大学の認証システムで認証を受け、学外からも利用でき

るようになることに、「学認」未参加大学の図書館職員は関心を寄せたようだった。本学も「学認」に参加し、電子ジャーナル等利用者の利便性を向上させたい。

(図書館 福島正徳)

約三〇〇人が地域清掃活動に参加

地域社会への貢献活動の一環として五月三一日、学友会主催の清掃活動を実施した。

一年生に参加を呼びかけ、学生約二五〇人と教職員約五〇人の合計三〇〇人が参加した。「日ごろお世話になっている地域の皆さんに少しでも恩返しができる」と、学友会会長の森菜々実さん(理学療法学科三年)をはじめ、執行部のメンバーが中心となって、大学、高木病院、市役所近辺の清掃活動を行った。

約一時間の清掃活動ではあったが、学生は道行く方々に笑顔で挨拶をしながら、たばこの吸い殻や空き缶、壊れたビニール傘など多くのゴミを回収した。学生にとっては大川市内の美化に貢献することができ、また自分が学ぶ地域や環境について振り返るよい機会となったようだった。



(学生国際係 杉原活郎)

大川市民夏まつりを開催

八月四日、大川市民夏まつりが開催された。この行事は大川中央商店街と国際医療福祉大学、大川観光協会が主催するもので、今年で一二回目を数える。実行委員長の平木一朗議員による開会宣言の後、大川市内の保育園・幼稚園の園児たちによるモックくん体操に始まり、本学軽音楽部、ダンス部による演奏やダンス、ゲスト団体によるフラダンスやチャアリーダー、少林寺演武などが披露された。



またこのまつりでは、本学の一年生が学生ボランティアスタッフとして参加しており、本部をはじめ、全てのセクションに学生スタッフが配置された。なかでも作業療法学科と医学検査学科の合同で三号館学生ラウンジにて実施された「お化け屋敷」は、長蛇の列ができるほどの盛況となり、参加した子供たちの悲鳴や笑い声が響いていた。

最後は自転車や家電製品など、豪華景品が当たるジャンケン大会で締めくくられた。準備期間が短く、また学業にも力を抜けない状況のなか、力を合わせて成功へと導いてくれた学生の皆さんに賞賛の拍手を贈りたいと思う。

(学生国際係 松永稔史)

# Sports Festivals

大田原キャンパス、成田キャンパス、大川キャンパスでそれぞれ運動会が開催された。

大田原キャンパスでは5月19日(土)、学生・教職員約1,100人が参加、競技種目はバットdeグルグル、栄光の架け橋など7種目を実施。競技部門では作業療法学科が優勝、薬学科が準優勝に、応援部門では看護学科が優勝、言語聴覚学科が準優勝に輝いた。

成田キャンパスでは6月16日(土)、第3回運動会を開催した。

今年初めて中台運動公園の陸上競技場での野外実施を予定していたが、あいにくの雨天のため、体育館での実施に切り替え、綱引き、玉入れ、障害物競走、リレーの4つに競技を絞り実施した。学科混成の4チーム対抗(青、緑、白、赤)としたため、見知らぬ学生同士が入り混じってのチームだったが、それぞれのリーダーのもと一致団結して競い合った。

大川キャンパスでは5月19日(土)、九州地区合同運動会として開催。

1、2年生約780人が参加、学科を越えて交流できる場となった。

今年の日玉は、教員も参加した障害物競争で、鉛食いで顔を真っ白にした教員が学生の声援を受けながらグラウンドを半周し、大変盛り上がった。総合優勝は大川キャンパス医学検査学科1年生だった。

※小田原キャンパスの運動会は11月開催予定。

## Fukuoka・Okawa Campus

福岡・大川キャンパス



●応援合戦



●学科別対抗リレー



●綱引き



●表彰式

## Otawara Campus

大田原キャンパス



●応援合戦



●応援合戦



●栄光の架け橋



●美女と野獣



●綱引きダッシュ!!

## Narita Campus

成田キャンパス



●ムカデ競争



●玉入れ



●チームをまとめるリーダー



●綱引き

# Odawara Campus



●総合ガイダンス



●肺音・心音の聴取

小田原キャンパスは  
六月二〇日(日)、八月五日(日)、二二日(日)、一六日(木)に開催。  
入試ガイダンス、学科体験入学、  
保護者のための進学ガイダンスなどともに  
「小田原で学ぶ」シリーズなど地元色を盛り込み、親子連れでにぎわい、  
昨年を上回る来場者が訪れた。

福岡キャンパスは  
七月二九日(日)、八月一九日(日)に開催、「学部長と話そう」や  
「看護教員に聞いてみよう」などのプログラムで構成。  
大川キャンパスは  
七月二二日(日)、八月四日(土)、八月一九日(日)に開催、  
入試バーチャル体験&入試対策講座(英語)、  
病院見学ツアーなどが人気だった。



# Fukuoka・Okawa Campus



●総合ガイダンス



●作業療法学科体験コーナー



●メディカルライブ



●手と指の不思議

# Otawara Campus



●医療福祉マネジメント学科の学科体験入学



●薬学科の学科体験入学



●保護者のための進学ガイダンス

# Narita Campus



●IUHWの英語教育



●心臓の音を聴いてみよう



●先輩交流カフェ



●聞こえチェック



各キャンパスで、オープンキャンパスを実施。

大田原キャンパスは  
六月一〇日(日)、七月二九日(日)、八月一日(水)、八月一八日(土)の四回。学科や学生が  
工夫を凝らした学科別ガイダンスや学科体験入学のほか、先輩の「ホンネ」が聞ける!!  
「ガクセイトーク」などが人気で、三月開催と合わせて五七七八人が参加した。

成田キャンパスは  
八月五日(日)、一九日(日)に開催。成田看護学部・成田保健医療学部では学科体験を  
中心に「入試説明」「英語対策講座」「保護者ガイダンス」などに多くの受験生や  
保護者が参加。医学部も同日開催し、世界最大級の広さを持つ「シミュレーションセンター」を  
開放して医療シミュレータ体験の実演を行った。顕微鏡によるヒトの細胞観察、  
英語教育説明なども終日賑わい、二日間の参加者は四〇〇〇人を超えた。  
高校推薦入試の出願開始が間近に迫った一〇月六日(土)にも成翔祭と同日開催する。

# Tokyo Akasaka Campus



東京赤坂キャンパスは今年、初めてのオープンキャンパスを七月八日(日)、八月五日(日)、一九日(日)の三回開催した。心理学科、医療マネジメント学科のフロア(五階、六階、八階)を中心にさまざまなイベントを展開。「メディアと社会心理」(心理学科)、「ドクターは診療情報なしにはやっていけない?」(医療マネジメント学科)などのテーマで展開される模擬授業が好評で、参加者たちは熱心に耳を傾けていた。学修内容や学生生活の模様、赤坂近辺の名所や飲食店などについて、自主制作したパネルを使って学生たちが説明。四月に入学したばかりの学生が、来場した高校生や保護者と直接話をする「カフェド・赤坂」も人気で、授業内容やサークルなどの話題で盛り上がりがあった。

「サークル体験コーナー」では、アルティメット(フライングディスクを使ったゲーム)、手話、ダンスのサークルがそれぞれの会場で実演・見学会を実施した。



●東京赤坂キャンパス入場口



●学科体験コーナーのパネル展示



●カフェド・赤坂



●学科受付



●資料展示コーナー



●心理療法「箱庭体験」コーナー

## ベトナム・ホーチミン市にドック健診センターを今秋開設

国際医療福祉大学はベトナム・ホーチミン市内にある国立チョーライ病院と共同で、同病院の隣接地に「ドック健診センター(H.E.C.I.)」を開設、今秋開業する。本学が医療施設を海外展開するのは初めて。国際医療福祉大学三田病院や山王病院、山王メディカルセンターと密接に連携し、最新鋭の機器を備えた日本式のきめこまやかな高品質のサービスを提供する。



一〇月一四日には、ベトナムのゲン・ティ・キム・ティエン保健大臣の立会いのもと現地ホーチミン市で開設セレモニーを開催する予定。

ドック健診センターは、山王病院や山王メディカルセンター、国際医療福祉大学三田病院に所属する経験豊富な医師の指導のもと、日本人間ドックの研修を受けたチョーライ病院の医療スタッフが、高品質でホスピタリティあふれるドック・健診サービスを提供。キャンソムメディカルシステムズをはじめとする日本の医療

機器メーカーの協力のもと、最新鋭の日本製医療検査機器による正確で高度な診断を行い、検査の結果、異常等が発見された場合は山王病院等と密接に連携してフォローする体制を整えている。

CT・MRIなど放射線画像検査および病理検査の必要が発生した場合は、国内のグループ施設および国際医療福祉大学医学部の遠隔画像診断センターと専用のインターネット回線で接続し、放射線科医と病理医によるダブルチェックを行う。

本事業は二〇一七年一月九日、ベトナムダナン市で開催されたAPEECで、安倍晋三首相及びベトナム国家主席の立会いのもと、ホーチミン市人民委員会委員長から本学に対して投資登録証明書が交付された。

チョーライ病院はベトナム保健省直轄のベトナム三大総合病院のひとつで、ホーチミン市を中心とするベトナム南部地域最大の医療機関。入院患者は常時二五〇〇人程度、外来は毎日五〇〇〇人、平日は四〇〇から五〇〇人が入院し、同じ数の患者が退院している。

本プロジェクトスタートから四年間で、チョーライ病院の医師・病理医師・看護師・臨床検査技師・放射線技師を合計約三五人受け入れるとともに、日本人医師・看護師・技師等約六五人を現地に派遣してきた。



●チョーライ病院の内視鏡医師の研修受け入れ

## 第10回 留学生が見た 母国と日本の保健福祉事情

頼 玉敏(ライ ユミン)

出身：台湾  
現在の所属：博士課程  
保健医療学専攻助産学分野



台湾の国立陽明大学(大学院修士臨床看護)を卒業し、元培医事科技大看護学科に講師として勤めています。

現在、大学院助産学分野の黒田緑教授の指導のもと「高齢初産婦における育児自己効力感尺度の開発」をテーマに研究を進めています。近年、三四歳以上で初めて母親になる女性が増えています。育児において自己効力感が高いと、自信を持って育児行動をとることが可能となります。そこで高齢初産婦の育児に対して自己効力感の実態を把握するとともに、個人的要因、家族要因、社会的要因との関連について明らかにすることをテーマとし、子育て支援に役に立つ研究をしたいと考えています。

現在、少子化社会の進行が、台湾にとどまらず世界各国に及んでいます。その中で日本の助産学が重視している出産ケアの質の向上は、女性にとって満足感のある出産につながり、出産の満足は育児を楽しむ

こととして捉えることができます。

台湾に帰国しても今の仕事に従事するため、深く知識、技術を身につけたいと思います。日本の助産学を学びに来ました。特に、本学大学院は日本国内で助産学大学院として知名度が高く、近年の助産師国家試験の合格率が一〇〇%です。台湾衛生福利部は二〇一四年から「友善多元溫柔出産病院試辦計画」が開始され、現在、分娩を生理的プロセスと考え、医療介入を最小限に抑えるという理想に向かうことに注力しています。今学期、助産師が主体となって運営する国際医療福祉大学病院の周産期センター内(パースハウス)で学んだことも、医療介入をなるべく少なくした出産でした。

四月に来日したばかりなので、当面は地域の行事や活動に参加したりして、大田原市に親しみをもちたいと思っています。親しい人間関係を作ることができるように、異国文化を尊重する、視野を広げるという気持ちで豊かな生活を送りたいと思っています。



●黒田緑教授(左)と一緒に塩原高原へハイキング

将来の目標は研究に携わることです。医療に潜む本質を追求して真実に近づけることが求められます。助産分野の中でまだ明らかになっていないことが多く、解明のために更に研究が必要だと思っています。

### 国際医療福祉大学成田病院

#### 開設に向け採用活動が本格化

本市の六つ目の附属病院として、成田市の地域医療に貢献し、国内外の患者様へ先端医療を提供する「世界基準のハブ病院」をめざす国際医療福祉大学成田病院では、準備委員長に病院長予定者である国際医療福祉大学三田病院の宮崎勝院長が就任し、福岡より坂本総看護部長を迎え、二〇二〇年四月の開設に向け体制作りが本格化している。すでにワーキンググループを立ち上げ、外来・入院の受け入れ体制や各部門の運営について検討を開始した。



上八階建ての研修教育センターや職員用の社宅・寮二棟を建設していく予定。また、病院に関わるすべての職種について採用活動を実施しており、全国各地から応募が集まっている。八月二日(土)、一七日(土)には成田キャンパスにて高橋生向の説明会を実施。九月一日(土)に成田キャンパス、九月三日(日)は東京赤坂キャンパスにて新卒・中途採用者向けの説明会を開催した。二十九日(土)には鹿児島市や福岡市でも説明会を開催する。成田病院開設までは、研修も兼ねてグループ病院で勤務できるため、今後も新卒から管理職経験者まで、幅広く募集していく。二〇二〇年の開設に向け、グループ一丸となって準備を進めている。

成田病院ホームページに病院紹介動画も掲載している。是非ご覧ください。  
成田病院に関するお問い合わせは  
成田病院準備事務局 〇三六八六三五五三三  
までお気軽にお電話ください。

### 国際医療福祉大学三田病院

#### 那須塩原市との共催「健康講演会」を開催

那須塩原市との共催による健康講演会「いっしょに考えよう、前立腺がん」前立腺がんから、あなたを守るために…診断と治療の最先端」を七月二日(土)、公共施設の三島ホールで開催した。冒頭、大和田倫孝病院長と那須塩原市教育委員会事務局の小泉聖一教育部長が

### 国際医療福祉大学塩谷病院

#### 「第二回市民公開講座」を開催

六月三日(土)、矢板市文化会館小ホールにて、本年度の「第二回市民公開講座」を開催し、須田康文病院長による「いつまでも元気に歩くために「足の痛み解消法」」の講演を行った。



講演では、外反母趾をはじめとするさまざまな足の疾患について、痛みがある箇所ごとに詳しく解説し、治療法や症状の緩和方法についても説明した。

(総務企画課 平野幸宏)

### 国際医療福祉大学熱海病院

#### 「リフレッシュ研修」を開催

神奈川県小田原市の海辺のキャンプ場「なみのこ村」で七月八日(日)、「リフレッシュ研修」を開催した。この研修は新入職員を対象に、スムーズな「チーム医療 チームケア」の遂行やスタッフ間の親睦を目的として毎年開催している。



神奈川県小田原市の海辺のキャンプ場「なみのこ村」で七月八日(日)、「リフレッシュ研修」を開催した。この研修は新入職員を対象に、スムーズな「チーム医療 チームケア」の遂行やスタッフ間の親睦を目的として毎年開催している。

(総務人事課 國分さやか)

研修医、引率のスタッフを合わせて総勢九九人が参加した。

横山直司看護部長の開会の挨拶に始まり、研修では相模湾の潮風を受けながら、バーベキューやスイカ割りを行った。最後に、全員で集合写真を撮り、にぎやかな時間を過ごした。



### 国際医療福祉大学市川病院

#### 「第一回 医療連携症例報告会」を開催

七月五日(木)、当院にて「第一回国際医療福祉大学市川病院 医療連携症例報告会」を開催した。会の主旨は、市川市、松戸市の近隣医療機関から紹介いただいた患者様を当院でどのように治療したかを具体的に報告するこ

とで、より緊密な医療連携を図ること。当日は一四の医療機関から一六人の医師にご参加いただいた。

報告会では、消化器外科、消化器内科、呼吸器外科より発表した。板野理副院長・統括外科部長による「肝動注化学療法を含む集学的治療により根治切除し得た巨大細胞癌の一例」および「低侵襲手術から周囲臓器合併切除を伴う高難度手術までの取組」、本告成淳消化器内科部長の「当院での消化器癌の学療法と癌緩和医療への取組み」、同科坪井優副部長の「食道及び胃におけるEDSの二症例」、山口学呼吸器外科部長の「呼吸器外科における完全鏡視下手術を安全に行うための試み」、今井俊一消化器外科医師の「膀胱合併切除を行った局所進行大腸癌の二例」だった。



●発表に聞き入る参加者の先生方

報告会後の懇親会は終始和やかな雰囲気、日ごろお世話になっている先生方と積極的に意見交換をする姿が見られた。今後もこうした会を積極的に開催する予定で、次回は十一月に実施する。(地域医療連携室 田中弘一郎)

### 国際医療福祉大学三田病院

#### 国際医療機能評価JCIの更新審査に向けて

二〇一五年二月にアメリカの国際医療機能評価JCI (Joint Commission International) の認証を取得した当院は、本年二月上旬に認証継続のため、三年ごとの更新審査受審を予定している。



●多くの職員が参加した勉強会

約三か月後に迫った更新審査に向け、医療の質と患者様の安全に主眼を置いたJCIの基準に対する職員の理解を深めてもらうため、プロジェクトメンバーを中心として「JCIハンドブック」を作成した。業務中でも気になる点があればすぐに参照できるように、携帯可能なサイズとなっている。七月二日(木)には、本ハンドブックに関する勉強会を開催。二〇人以上の職員が出席し、会場の三田ホールは立ち見が出るほどで、職員のJCI更新審査に対する意識の高まりが感じられた。

(国際室 長谷川典昭)

### 山王病院

#### リプロダクション・婦人科内視鏡治療センターにて卵巣機能不全外来を開始

当院リプロダクション・婦人科内視鏡治療センターに四月、河村和弘国際医療福祉大学医学部教授・高度生殖医療リサーチセンター長が着任した。



河村医師は、聖マリアンナ医科大学在籍時にスタンフォード大学と共同で卵巣活性化療法 (IVA: in vitro activation) と卵巣凍結保存、卵巣機能不全症例に特化した卵巣刺激法の確立に取り組んできた。これまで、卵巣機能不全に対する治療法はなく、若い女性からの提供卵子を用いたものだったが、倫理的・医学的・ドナーの供給の問題から、わが国ではほとんど実施されていなかった。

河村医師は、二〇一三年に、早発卵巣不全の患者様で世界初のIVAによる妊娠分娩に成功、米国Time誌が選ぶ二〇一三年世界一〇大medical breakthroughに認定されており、これまで一〇人がこの治療法で妊娠されている。

当院では、今秋、河村医師による卵巣機能不全手術を開始する予定で、自らの卵子での妊娠が困難な早発卵巣不全や高齢不妊の患者様に対し、卵巣活性化療法や卵巣組織凍結をはじめとする臨床研究を行っていく。

(総務課 山本悦子)

広報誌 IUHW 114号 発行：学校法人 国際医療福祉大学

〔大田原キャンパス〕  
栃木県大田原市北金丸2600-1 ☎0287-24-3000  
〔成田キャンパス〕  
千葉県成田市公津の杜4-3 ☎0476-20-7701  
〔東京赤坂キャンパス〕  
東京都港区赤坂4-1-26 ☎03-5574-3900  
〔小田原キャンパス〕  
神奈川県小田原市城山1-2-25(本校舎) ☎0465-21-6500

〔福岡キャンパス〕  
福岡県福岡市早良区百道浜1-7-4(1号館) ☎092-407-0805  
〔大川キャンパス〕  
福岡県大川市津津137-1 ☎0944-89-2000  
編集：広報部 ☎03-5574-3828  
デザイン：野佐デザイン



医療福祉の多彩なエキスパートを育てる。  
**国際医療福祉大学**

ホームページでもご覧いただけます。  
<https://www.iuhw.ac.jp/>  
©国際医療福祉大学2018 Printed in Japan 禁無断転載・複写



お茶会サークル



今年4月に開設した赤坂心理・医療福祉マネジメント学部  
の1期生で創部しました。「お茶やお菓子(ハーブティーや糖分)  
がもたらすリラクゼーション効果などについてメンタルヘル  
スの観点で心理学の役に立つのではないかと」の思いがきっ  
かけです。

授業の合間や授業後、休日などに  
サークル内で都合がつく部員が集ま  
り、評判の良い喫茶店やカフェを巡  
ったり、各自が持ち寄った甘味を、お  
茶のお供に食したりすることで、お  
菓子やお茶の奥深さに学び、各国の  
歴史や文化に触れるというのが主な活動内容です。



お茶の中でもハーブティーに関しては、リラクゼーション効果な  
どが期待されるため、将来的に私たちが公認心理師や臨床心  
理士などの職に就いた時に、相談者に対して提供したならば  
どのような効果が表れ、影響するのかなどもメンバーと意見  
交換をしています。



メンバー構成は男子4人、  
女子12人の16人で、心理  
学科の学生が多いですが、医  
療マネジメント学科の学生も  
います。活動ペースは約2週  
間に1回30分から1時間ほ

ど、談笑を交えながらのお茶会を催します。活動場所は東京赤  
坂キャンパス2階カフェテリアや、近くの喫茶店などで開い  
ています。

カフェなどに行く際に人数が多い場合は、数グループにわ  
けて行動し、終了後に各自報告するという形をとっています。  
カフェテリアで活動する場合は、お菓子作りが好きな人が多  
いため、各自が作ったお菓子などを持ち寄って食べたり、洋菓  
子店などから買ってきたお菓子を食べていたりして意見の交換を  
します。

今年度の大学祭では簡易カフェを開いたり、自作のお菓子  
を配ったりするほか、今まで  
に周ったカフェや食べたお  
菓子についてまとめようと  
考えています。認可されたば  
かりのサークルのため、まだ  
明確な方針等は決まってい  
ませんが、今後固めていけれ  
ばいいなと考えています。



顧問は心理学科の青木万里先生で、面倒見がよく大変優し  
い先生なのでのびのびと活動できます。お茶(主に紅茶など)  
や洋菓子や和菓子が好きな人、のんびり人と会話したい人など、  
皆さんの参加をお待ちしています。

(東京赤坂キャンパス心理学科1年、お茶会サークル部長 高鹿二優加)



とべとべ!!  
☆3分間ジャンピング

大田原キャンパスは5月19日(土)、  
さわやかな春の好天のなか、学生・教職  
員約1,100人が参加して、第23回運動  
会を開催した。競技種目は「バットdeグルグル」や「栄  
光の架け橋」「綱引きダッシュ!!」「俺についてこい」「と  
べとべ!!☆3分間ジャンピング」(写真)など、ユニーク  
なネーミングがつけられ、学科ごとに分れて競われた。  
(運動会の写真特集は12, 13ページ)

